

令和 7 年度 富山市中心市街地活性化基本計画の定期フォローアップに関する報告

令和 8 年 5 月
富山市（富山県）

○計画期間：令和 4 年 4 月～令和 9 年 3 月(5 年 0 月)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和 7 年度終了時点（令和 8 年 3 月 31 日時点）の中心市街地の概況

富山市中心市街地活性化基本計画では、目指す中心市街地の都市像を「魅力的な都市空間を舞台に、未来を担う人材が生まれ、笑顔あふれる活力あるまち」と設定している。

その都市像の実現を目指して、「公共交通・都市空間」、「商業・賑わい」、「暮らし」の観点に基づき、「公共交通ネットワークの活用と良質な都市空間の形成による回遊性の高い中心市街地の形成」、「まちなかの既存ストックを活用した創業・起業・チャレンジが生まれる中心市街地の形成」、「すべての世代がそれぞれのライフステージに応じて、幸せに暮らせる中心市街地の形成」の 3 つの方針のもと、それぞれに目標を定め、各種事業に取り組んでいる。

「公共交通・都市空間」の観点では、令和 2 年 3 月に富山駅路面電車南北接続事業が完成したことにより、富山駅で南北に分断されていた路面電車が接続し、乗り換えをすることなく市街地南北の移動が可能になったことや、令和 5 年 7 月に富山駅の北側にオーバード・ホール/中ホールが開館、令和 6 年度、7 年度にブルバール広場、親水広場の再整備が完了するなど魅力的な都市空間が創出された。

「商業・賑わい」の観点では、富山市新規出店サポート事業による出店の促進や、全日本チンドンコンクール、民間主導によるトランジットモールといったイベントが開催されるなど中心市街地の賑わいを創出した。

「暮らし」の観点では、平成 19 年度から中心市街地の居住人口の社会増加が続いている。生活利便施設や交通網の整備などにより質の高い居住環境が整ってきていることやまちなか居住推進事業による支援などによりまちなかの居住ニーズが高まり、今後も中央通り D 北地区第一種再開発事業などの市街地再開発事業や民間資本による分譲マンションの建設が続くなど好循環が生まれている。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日：毎年度6月末日)

(中心市街地 区域)	令和3年度 (計画前年度)	令和4年度 (1年目)	令和5年度 (2年目)	令和6年度 (3年目)	令和7年度 (4年目)	令和8年度 (5年目)
人口	21,711	21,641	21,619	21,477	21,387	
人口増減数	▲175	▲70	▲22	▲172	▲60	
自然増減数	▲235	▲194	▲223	▲273	▲272	
社会増減数	60	124	201	108	212	
転入者数	1,272	1,427	1,379	1,435	1,465	

(2) 地価

(単位：円/㎡)

	令和3年度 (計画前年度)	令和4年度 (1年目)	令和5年度 (2年目)	令和6年度 (3年目)	令和7年度 (4年目)	令和8年度 (5年目)
中心市街地 平均	161,938	162,133	164,157	167,090	170,271	

2. 令和7年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

富山市では、中心市街地の都市像を「魅力的な都市空間を舞台に、未来を担う人材が生まれ、笑顔あふれる活力あるまち」と設定し、その実現のため「公共交通・都市空間」「商業・賑わい」「暮らし」の3つの観点により計画に位置付けた各種事業を推進され、中心市街地の活性化に取り組んでいる。

本計画の4つの目標指標のうち、「市内電車一日平均乗車人数」は令和7年度から目標値を達成し、コロナ禍前の水準を上回るとともに、平成19年に第1期基本計画の認定を受けて以降、最多の乗車人数となった。これは、富山駅路面電車接続による利便性向上や賑わい拠点となる都市空間整備、集客施設整備など、これまでの取組の成果が現れているものと考えられる。

そのほかの目標指標についても、「中心商業地区及び富山駅周辺地区の歩行者通行量(日曜日)」及び「中心市街地の居住人口の社会増加」においては目標値を超えたほか、「中心市街地の健康な高齢者の割合」においても後期高齢者は昨年度に引き続き目標値を超え、前期高齢者も基準値を若干下回るものの、おおむね維持し、本計画は概ね順調に推移しているものと評価している。

当協議会としては、計画に位置付けられた各種事業を官民が連携して着実に実施していくことが重要であると考えており、計画期間最終年度となる令和8年度においても、目標指標の達成状況を注視しながら助言や提案等を行うなど、計画に掲げられた目標を達成できるよう中心市街地のさらなる活性化に向けて共に取り組んでいきたい。

また、「魅力的な都市空間を舞台に、未来を担う人材が生まれ、笑顔あふれる活力あるまち」の実現に向けて基本計画を推進し、中心市街地だけにとどまらず、市全体が活性化することを期待する。

Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況※1	目標達成に関する見通し※2	
						前回の見通し	今回の見通し
①来街者が回遊する魅力的な都市空間の創出	①市内電車一日平均乗車人数	20,429 人/日 (R 元)	21,500 人/日 (R8)	21,891 人/日	A	A	A
② 商業・賑わいの再生による活力ある歩きたくなるまち	②中心商業地区及び富山駅周辺地区の歩行者通行量(日曜日)	51,577 人 (R 元)	53,000 人 (R8)	80,375 人	A	A	A
③多世代が集い、良質な暮らしを享受できるまち	③-1 中心市街地の居住人口の社会増	113 人増/年 (H17～R 元)	113 人増/年 (R3～R8)	161 人増/年 (R3～R7)	A	A	A
	③-2 中心市街地の健康な高齢者の割合 【前期高齢者：65～74 歳】 【後期高齢者：75 歳以上】 (65 歳以上の高齢者で、介護保険の要支援・要介護認定を受けていない人の割合)	前期高齢者：95.9% 後期高齢者：63.7% (R 元)	前期高齢者：96.3%以上 後期高齢者：63.7%以上 (R8)	前期高齢者：95.8% 後期高齢者：65.5%	B	A	A

<基準値からの改善状況（※１）>

最新値が基準値や目標値と比較してどうであるかで判断

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

<目標達成に関する見通しの分類（※２）>

計画終了時の数値が、基準値や目標値と比較してどのような見通しかで判断

A：目標達成が見込まれる

B：目標達成が見込まれないが基準値を上回ることが見込まれる

C：目標達成及び基準値を上回ることが見込まれない

※「<基準値からの改善状況（※１）>」、<目標達成に関する見通しの分類（※２）>ともに、関連する事業等の進捗状況が順調でない場合は、英字を小文字にして下線を引いて下さい。（例：a、b、c）

2. 目標達成見通しの理由

令和７年度の市内電車一日平均乗車人数は21,891人となり、基準年度である令和元年度の20,429人/日を1,462人/日（約7.2%）上回った。また、本年度から目標値の21,500人/日を上回った。

これは、ブルバール等再整備事業における親水広場の整備に加え、「まちなか賑わい広場」や「富山駅前広場」などが、民間企業や市民向けのイベントスペースとして活用されていることで、市民や観光客にとって魅力的な憩い・交流の場となった結果、中心市街地への来訪を促進し、市内電車の利用者増加につながった要因の一つである。さらに、「おでかけ定期券事業」により、高齢者が低廉な運賃で公共交通を利用しやすくなったことが、中心市街地への外出を後押しし、公共交通の利用促進に寄与している。

今後についても、市内電車を含めた公共交通をお得に利用できる乗車券の発行や、まちなかにおけるイベントの集中開催が予定されていることから、中心市街地への来訪機会はさらに増加すると見込まれる。これに伴い、市内電車の利用者数も引き続き増加していくことが期待される。

「中心商業地区及び富山駅周辺地区の歩行者通行量」は、80,375人となり、前年度との比較では22,899人（約39.8%）増加し、目標値を27,375人（約51.7%）上回った。

これは、（一社）トヤマチミライによるイベントなどの取組や、オーバードホール（大・中ホール）や再整備が完了したブルバール広場・親水広場でのイベント開催により、富山駅周辺の歩行者通行量が増加したことなどが要因であると考えられる。

今後も引き続き官民が連携した継続的賑わい創出イベント等を実施するとともに中心商業地区における民間主導のトランジットモールなどのイベント実施、富山市新規出店サポート事業による出店の促進および中央通りD北地区第一種再開発事業により整備されるアイススケート場などの賑わい拠点整備等を通し目標値を上回る歩行者通行量が維持されると見込まれる。

「中心市街地の居住人口の社会増」は、令和６年度から令和７年度にかけて211人の増加となった。現計画期間の令和３年度から令和７年度までの平均値は年161人増となり、目標を上回っている。

これは、「まちなか居住推進事業」における、住宅取得支援や家賃助成などの効果が現れているほか、これまでの中心市街地活性化の取組により、質の高い居住環境が整ってきたことで、まちなか居住のニーズが高まっていることが要因だと考えられる。

この居住ニーズの高まりを受けて、今後も再開発事業や民間による分譲マンションの

建設が予定されていることから、今後も居住人口の社会増は継続すると見込まれる。

「中心市街地の健康な高齢者の割合」について、前期高齢者は 95.8%であり、基準値を 0.1 ポイント、目標値を 0.5 ポイント下回った。この背景には、生活習慣の多様化や健康管理の難しさが影響していると考えられる。一方で、後期高齢者は 65.5%となり、基準値および目標値を 1.8 ポイント上回っている。前期高齢者の目標未達は引き続き課題であるが、全体としては改善傾向にある。

これは、「まちなか総合ケアセンター」における在宅医療の推進など地域包括拠点施設としての総合的な支援や「まちなかサロン」でのイベントおよび自主的な趣味活動、創造活動を促進する数種類のコースを設けた「シニアライフ講座」の開催を通じて、高齢者の健康づくりや生きがいづくりを目的とした取り組みにより、多様な活動の機会の創出に努めてきたことが成果につながったと考えられる。また、「角川介護予防センター」での温泉水の効用を活用した水中運動やパワーリハビリテーションなど複合的な介護予防プログラムの提供が、高齢者の健康維持に寄与していると考えられる。さらに、高齢者の外出機会を創出することで健康寿命を延ばす、「おでかけ定期券事業」や「歩くライフスタイル推進事業」なども、高齢者の健康づくりに寄与しているものと考えられる。

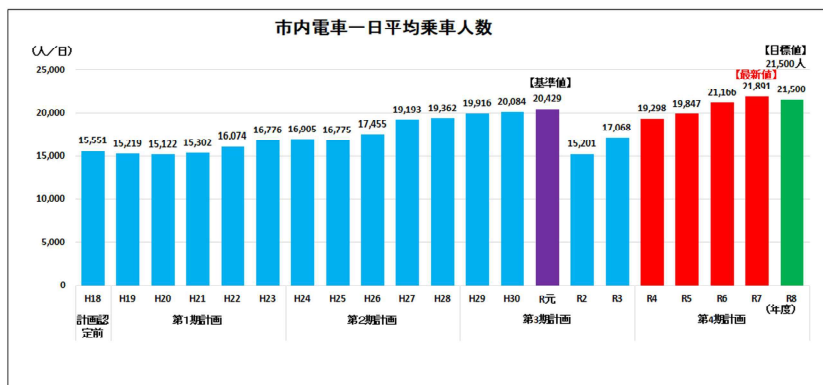
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回から変更はない。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「市内電車一日平均乗車人数」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P.79～P.85 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
R 元	20,429 人/日 (基準年値)
R4	19,298 人/日
R5	19,847 人/日
R6	21,166 人/日
R7	21,891 人/日
R8	21,500 人/日 (目標値)

※調査方法：実測値による平均人数

※調査月：通年

※調査主体：(R元年度まで) 富山地方鉄道株式会社及び富山ライトレール株式会社
(R2年度以降) 富山地方鉄道株式会社

※調査対象：市内電車

〈分析内容〉

令和7年度の市内電車一日平均乗車人数は21,891人となり、基準年度である令和元年度の20,429人/日を1,462人/日(約7.2%)上回った。また、本年度から目標値の21,500人/日を上回った。プールバール等再整備事業における親水広場の整備に加え、「まちなか賑わい広場」や「富山駅前広場」などが、民間企業や市民向けのイベントスペースとして活用されていることで、市民や観光客にとって魅力的な憩い・交流の場となった結果、中心市街地への来訪を促進し、市内電車の利用者増加につながった要因の一つである。さらに、「おでかけ定期券事業」により、高齢者が低廉な運賃で公共交通を利用しやすくなったことが、中心市街地への外出を後押しし、公共交通の利用促進に寄与したものと考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. ブールバール等再整備事業（富山市）

事業実施期間	令和元年度～令和7年度
事業概要	路面電車の南北接続を契機として、富山駅北の賑わいを創出するためブールバールの再整備やイベント等の社会実験を実施する事業である。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（富山市中心市街地地区（第4期））（国土交通省）（令和4年度～令和7年度） 都市構造再編集中支援事業（富山市中心市街地地区（第4期））（国土交通省）（令和4年度、令和6年度～令和7年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】170人/日 増 調査地点である「オーバード・ホール前」の歩行者通行量の最新値（令和7年度）は平日2,745人/日、休日3,759人/日であり、基準年度である令和元年度の実績と比べ平日3,079人/日、減少、休日1,019人/日増加した。このことから、市内電車の利用者は179人/日減少していると見込まれる。 平日の歩行者通行量が基準値に届いていないが、再整備前と比較すると増加傾向にある。
事業の今後について	令和7年度では、前年度のブールバール広場に続き、親水広場の再整備が完了し、イベント等の社会実験を3件行った。引き続き一体的な利活用の方策検討のための社会実験等に取り組むことで、エリアの魅力向上につながり、事業完了後には、市内電車一日平均乗車人数が170人/日増加すると見込まれる。

②. 中規模ホール整備官民連携事業（富山市）

事業実施期間	平成29年度～ 【実施中】
事業概要	PFI手法を用いて、富山市芸術文化ホール（オーバード・ホール）北側に中規模ホールを整備し、維持管理を行う事業である。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】15人/日 増 令和5年7月1日に開館し、令和7年度の年間来場者数は12,337人であった。このことから、市内電車の利用者は4人/日増加していると見込まれる。
事業の今後について	引き続き、オーバード・ホール／中ホールを運営し、催事が開催されることで、まちなかへの来街者が増え、事業目標値の達成も可能と考えられる。

③. 交通空間賑わい実証事業（富山市/富山トランジットモール実行委員会）

事業実施期間	平成 28 年度～令和 8 年度【実施中】
事業概要	富山城址公園が隣接し、沿道にコンベンション施設や複合型商業施設等が並び、路面電車が走行する大手モールをイベントに合わせてトランジットモール化する事業。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 4 年度～令和 8 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】22 人/日 増 調査地点である「市民プラザ前」の歩行者通行量の最新値（令和 7 年度）は平日 1,464 人/日、休日 1,989 人/日と基準年度である令和元年度と比べ平日 379 人/日、休日 652 人/日減少した。このことから、市内電車の利用者は 47 人/日減少していると見込まれる。
事業の今後について	富山トランジットモール実行委員会の民間ネットワークとイベント運営力を最大限活かし、以下の取組を進める。 ①イベント拡充：引き続き越中大手市場を核としたトランジットモールを年 4 回開催するが内容の質を向上させる（成果の高い企画をレギュラー化・季節ごとに適したテーマを設定した統一感のある企画） ②集客・広報強化：実行委員会、新聞社事務局の強みを活かしたメディア特集連動と、スタンプラリー等による周遊促進を図る ③効果検証：各イベント中と来街者・出店者アンケート結果を踏まえ、日常の賑わいへの波及策を講じる これにより、イベント時の通行量実績（通常時の 4～10 倍）を活かし、歩行者通行量の回復・向上を実現して事業目標の達成を目指す。

④. 富山市新規出店サポート事業（富山市）

事業実施期間	平成 21 年度～令和 8 年度【実施中】
事業概要	中心商店街等の空き店舗への出店者に対し、店舗改装費や賃借料等を支援し、市民、来街者のニーズが高く、商店街に不足している業種の出店を促進する事業である。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 4 年度～令和 8 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】41 人/日 増 令和 7 年度は 3 件の新規出店に対して支援したことにより、市内電車利用者数は 5 人/日増加したものと見込まれる。
事業の今後について	補助対象の拡大等の要綱の見直し、市広報ツール（HP、公式 LINE、市報等）によって支援制度を周知を図り、出店・リノベーションを促進することにより、空き店舗の更なる活用を図る。

⑤. 中央通りD北地区第一種市街地再開発事業（中央通りD北地区市街地再開発組合）

事業実施期間	平成 30 年度～令和 8 年度【実施中】
事業概要	スポーツ交流施設、商業施設、業務施設、住宅施設等の複合施設を整備する市街地再開発事業。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（富山市中心市街地地区（第 4 期））（国土交通省）（令和 4 年度～令和 7 年度） 社会資本整備総合交付金（市街地整備事業（防災・省エネまちづくり緊急促進事業））（令和 6 年度～令和 8 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】83 人/日 増 【最新値】— 令和 6 年度に建築物工事着工
事業の今後について	令和 3 年 3 月に本組合へ移行し、令和 5 年 2 月に権利変換計画の認可を受け、建物完成に向け事業が進捗している。事業完了後は、整備される商業施設やアイススケート場の利用者が増加することにより、市内電車の利用者数が 83 人/日増加すると見込まれる。

⑥. おでかけ定期券事業（富山市）

事業実施期間	平成 16 年度～令和 8 年度【実施中】
事業概要	市内在住の 65 歳以上の高齢者を対象に、バス・鉄道・路面電車を利用して中心市街地へ出かける際に、1 乗車 100 円で利用できる IC カードを発行する事業。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 4 年度～令和 8 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】117 人/日 増 令和 7 年度のおでかけ定期券一日平均利用者数は、2,001 人と基準年度である令和元年実績 2,758 人から 757 人減少した。このうち、おでかけ定期券での路面電車利用割合は 36%であることから、市内電車一日平均乗車人数は 545 人/日減少したと見込まれる。 令和 7 年度実績と比べると 28 人/日減少となった。市内電車の利用者数は増えているが、おでかけ定期券の利用者数や申込者数が減少したと思われる。
事業の今後について	①広報活動の強化 対象者（65 歳以上）への直接アプローチとして、 ・広報とやまや市公式 LINE に加え、高齢者施設や、県の施設へパンフレット配布範囲の拡大 ・おでかけ定期券の新規・更新時期（3 月下旬～）に合わせ、高齢者施設への説明会実施

	②優待サービスの周知・拡充 協賛店（約 80 店）との連携を強化し、おでかけ定期券提示時の特典メニューを更新・拡充 これらの取組について検討し、定期券の申し込みや利用の促進を図ることで、引き続き目標達成を目指す。
--	---

⑦.「まちなかイベント開催事業」（富山市）

事業実施期間	平成 20 年度～令和 8 年度【実施中】
事業概要	まちづくり会社や民間事業者、商店街団体等が連携・協働し、グランドプラザに樹脂製のスケートリンク（エコリンク）を設置するとともに、中心商店街を紹介する情報誌を作成する事業。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 4 年度～令和 8 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	エコリンク利用者数 令和 7 年度 9,119 人 令和 6 年度 8,594 人 令和 5 年度 5,960 人 グランドプラザでのイベント開催が来街者の集客と滞在を促進し、歩行者通行量増加に直接寄与している。
事業の今後について	引き続き、エコリンクの設置・運営および中心商店街情報誌の作成を継続する。。 イベントの質の向上や広報活動の強化により、利用者数のさらなる増加を図るとともに、市内電車一日平均乗車人数の増加を目指す。

⑧. まちなか賑わい施設運営事業（富山市）

事業実施期間	平成 19 年度～令和 8 年度【実施中】
事業概要	「グランドプラザ」と「ウエストプラザ」の管理運営およびイベント開催、さらにミニシアターの運営に対して支援を行う事業。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 4 年度～令和 8 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	グランドプラザ：イベント貸出件数 122 件 （令和 6 年度：123 件） ウエストプラザ：イベント貸出件数 121 件 （令和 6 年度：85 件） 賑わい交流館：シネマホール入場者数 21,066 人 （令和 6 年度：18,385 人） ライブホール 2,148 人 （令和 6 年度：2,335 人） 各施設において、安定的にイベントを開催し、中心市街地の賑わい拠点として機能している。
事業の今後について	グランドプラザ・ウエストプラザの管理運営を継続し、民間ノウハウを活かしたイベント開催を推進する。 ①利用者ニーズを踏まえたイベント企画力の強化 ②施設の稼働率向上と収益改善に向けた自主事業の拡充 ③指定管理者によるコスト意識の向上と効率的な施設管理 ④市民満足度調査の定期実施とサービス改善の PDCA サイクル運用等といった指定管理者制度の効果的な運用を検討し、市民サービスの向上と賑わいの創出を図る。

⑨. とやmasノーピアード開催事業（富山市）

事業実施期間	昭和 60 年度～令和 8 年度【実施中】
事業概要	富山城址公園や城址大通りなどを会場に、12 月上旬から 2 月中旬にかけて冬の夜を華やかに彩る「ホワイトイルミネーション」などを実施する事業。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 4 年度～令和 8 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 7 年度も予定通り開催。エコリンクや中央通り仮囲いアートプロジェクトとの相乗効果により、冬期間における目標達成に貢献していると考えられる。またコロナ後回復傾向の中で、冬期中心市街地活性化の重要な役割を果たしている。
事業の今後について	引き続きイルミネーションを実施し、（一社）トヤマチミライと連携した富山駅周辺の賑わい創出、中心商店街エリアにおけるエコリンク等関連イベントとのさらなる連携強化を図る。

⑩. 富山まつり開催事業（富山市）

事業実施期間	昭和 36 年度～令和 8 年度【実施中】
事業概要	富山城址公園と城址大通りを会場とし、9 月下旬に「よさこいやま」や「おわら踊り」などからなる市民参加型の祭りを開催する事業。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 4 年度～令和 8 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 7 年度も予定通り開催。過去 4 年間の来場者数は令和 4 年約 17 万人、令和 5 年約 19 万人、令和 6 年約 15 万人、令和 7 年約 16 万人と、毎年 15 万人規模となっており、城址公園・城址大通り周辺の人流集中が中心商業地区の回遊を促進し、市内電車利用の増加に寄与している。
事業の今後について	引き続き大型イベントによる中心市街地の賑わい創出と回遊性向上を図ることで、市内電車利用のさらなる増加が期待される。また、観光客拡大（ニューヨーク・タイムズ選出等）と MaaS 事業との連携により、目標達成に向けた取組を強化する。

⑪. 全日本チンドンコンクール開催事業（富山市）

事業実施期間	昭和 30 年度～令和 8 年度【実施中】
事業概要	全国のプロチンドンマンや愛好者が参加するコンクールを毎年 4 月上旬に開催するほか、中心市街地でのパレードや街流しを行う事業。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 4 年度～令和 8 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 7 年度も予定通り開催。令和 5 年度約 10.5 万人、令和 6 年度約 12 万人、令和 7 年度約 13 万人の参加者・観客を集めており、全国規模のイベントとして中心市街地に大きな集客効果をもたらしている。また、パレード・街流しによる中心市街地の回遊を促進し、地域交通利用促進事業との連携により、市内電車利用の増加に寄与している。
事業の今後について	パレード等を通じた集客・回遊効果を継続的に発揮し、市内電車利用促進に貢献する。またイベントと連動した MaaS 事業との連携を検討し、引き続き乗車人数目標達成を目指す。

⑫. 地域交通利用促進事業（富山市）

事業実施期間	平成 20 年度～令和 8 年度【実施中】
事業概要	市内に宿泊する国内観光客に対し、路面電車の割引利用券を、また外国人観光客に対しては無料利用券を配布する事業。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 4 年度～令和 8 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	和 7 年度の実績：割引券（日本人用）86,759 枚、無料券（外国人用）42,982 枚 令和 4 年度の割引券 76,871 枚、無料券 3,513 枚と比べて大幅に増加。 割引・無料利用券の配布は、特に富山まつり等の大型イベント開催時における来街者や宿泊客の市内電車利用を直接促進し、観光客の増加と連動して路面電車の利用拡大に寄与している。
事業の今後について	観光客増加に伴う利用促進効果を継続し、市内電車乗車人数の目標達成を後押しする。また、MaaS 事業等との連携により利用拡大を図る。南北接続の利便性向上も相まって、増加傾向を維持する。

●目標達成の見通し及び今後の対策

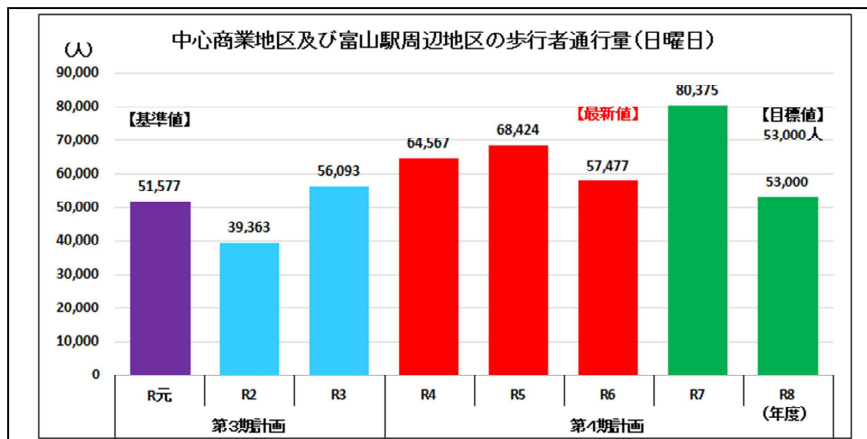
市内電車一日平均乗車人数の増加に向けた各事業については、概ね順調に進捗している。一部の事業については令和6年度に比べ数値が下がっているが、ブルバール広場および令和7年度に再整備を終えた親水広場の一体的な活用による賑わい創出や、おでかけ定期券事業などの来街機会を増やす取組により、目標は達成可能と見込んでいる。

中央通りD北地区第一種市街地再開発事業により整備される商業施設やアイススケート場については、令和9年3月のオープン予定であるため、本計画期間終了時点での路面電車乗車人数への影響は限定的であるが、オープンに向けたプレイベントの開催や事前プロモーション等を通じて、再開発エリアである中心商店街への来街を促進する効果が期待される。

（２）「中心商業地区及び富山駅周辺地区の歩行者通行量（日曜日）」

※目標設定の考え方認定基本計画 P.86～P.91 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
R 元	51,577 人/日 (基準年値)
R4	64,567 人/日
R5	68,424 人/日
R6	57,476 人/日
R7	80,375 人/日
R8	53,000 人/日 (目標値)

※調査方法：富山市歩行者通行量調査

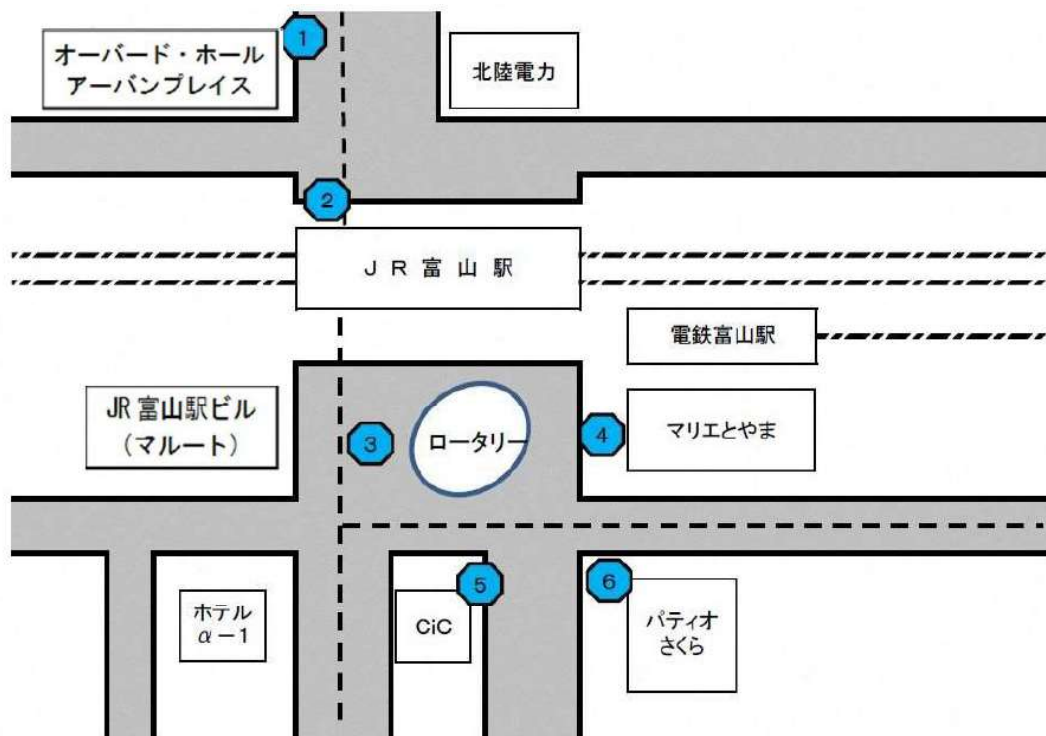
(富山駅周辺地区 6 箇所、中心商業地区 5 箇所、11 時間連続調査)

※調査月：毎年 5 月、8 月、11 月、翌 3 月の日曜日（各月 1 日間）

※調査主体：富山市

※調査対象：歩行者、自転車

調査地点＜富山駅周辺地区（6 箇所）＞



調査箇所 ①オーバード・ホール前 ②J R 富山駅北口 ③富山駅南口ロータリー西側
④マリエとやま西側 ⑤CiC ビル東側 ⑥パティオさくら前

調査地点＜中心商業地区（５箇所）＞



調査箇所 ⑦市民プラザ前（東西歩道前） ⑧ユウタウン総曲輪駐車場入口前
⑨インフェイズ前 ⑩旧富山西武南側 ⑪北陸銀行本店北側

（単位：人）

	令和３年度 （計画前年度）	令和４年度 （１年目）	令和５年度 （２年目）	令和６年度 （３年目）	令和７年度 （４年目）	令和８年度 （５年目）
オーバード・ホール 前	3,342	2,442	3,143	2,695	3,759	
J R 富山駅北口	6,855	6,686	7,611	6,289	8,528	
富山駅南口ロータ リー西側	6,418	19,977	21,361	16,852	27,383	
マリエとやま西側	10,549	9,497	10,504	8,629	14,181	
CiC ビル東側	3,675	4,151	4,454	3,538	5,911	
パティオさくら前	3,019	2,823	2,831	2,085	3,396	
市民プラザ前	3,905	2,311	2,287	1,707	1,989	
ユウタウン総曲輪 駐車場入口前	6,487	5,849	5,617	5,568	4,985	
インフェイズ前	3,889	3,804	3,770	2,647	3,664	
旧富山西武南側	5,331	4,707	4,560	5,002	4,202	
北陸銀行本店北側	2,623	2,322	2,288	2,466	2,380	

※年４回調査の平均値を記載。

〈分析内容〉

令和7年度の中心商業地区及び富山駅周辺地区の歩行者通行量は80,375人となり、前年度との比較では22,899人（約39.8%）増加し、目標値を27,375人（約51.7%）上回った。これは、年4回の歩行者通行量（日曜日）の調査について、11月の測定日に富山駅で大型イベント「すしフェスティバル2025」が開催され、大幅に歩行者通行量が増加したことが要因となり、全体の歩行者通行量を押し上げたためである。

なお、11月について、上記規模の大型イベントがない前週を代替日として試算した場合においても、約68,677人となり、歩行者通行量は基準値及び目標値を上回り前年と比較しても増加した。（ただし、前年度においては11月、3月時は悪天候により歩行者通行量が著しく減少）特に富山駅周辺地区の歩行者通行量が伸びており、これは官民連携まちづくり団体の（一社）トヤマチミライ等の継続的な活動をはじめ、南北接続5周年記念であるヒト・マチMaas賑わい創出事業、ひまわりプロジェクトなどにより、来街機会が増えたことが要因であると考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 富山市商店街空き店舗・空き地活用事業（富山市）

事業実施期間	平成17年度～令和8年度【実施中】
事業概要	空き店舗や空き地を活用して創業支援店舗や休憩室のほか、イベント広場やオープンカフェ等を整備する商店街団体等に対し、店舗改装費や空き地整備費等を支援する事業。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和7年度は実績なしであったが、中心市街地全体の賑わい施策と合わせて歩行者通行量の維持に間接的に貢献した。
事業の今後について	空き店舗活用の継続と新規出店促進により、中心商業地区の商業機能強化と賑わい創出を図る。

②. 富山市商店街等活性化事業（中心商店街賑わいイベント事業）（富山市）

事業実施期間	平成17年度～令和8年度【実施中】
事業概要	地域住民とのふれあい又は消費者との相互理解を深めるためのイベントなど、商店街団体等がその地域の特性に応じた個性的なまちづくりのために行う事業に対し支援する事業。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和7年度は交付件数3件でイベント支援を実施し、目標の達成に寄与した。中心商店街での賑わいイベント開催が来街者の集客と回遊を直接促進し、歩行者通行量増加に貢献している。
事業の今後について	引き続き商店街特性に応じた個性的なイベントを継続的に展開し、中心市街地の回遊性と賑わい向上を図る。

③. 中心市街地コミュニティバス運行事業（富山市）

事業実施期間	平成 12 年度～令和 8 年度【実施中】
事業概要	中心市街地区域内において循環型コミュニティバス（まいどはやバス）を運行する事業。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 4 年度～令和 8 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	まいどはやバスの循環運行が中心市街地内の移動利便性を高め、イベント会場や商業施設へのアクセスを容易にすることで歩行者通行量の増加を間接的に支援している。 令和 6 年度は西ルート 60,088 人・東ルート 64,533 人だったが、令和 7 年度は西ルート 63,535 人（前年度比+3,447 人、約 5.7%増）、東ルート 68,383 人（前年度比+3,850 人、約 6.0%増）と両ルートで利用者数が着実に増加した。 この推移は、中心市街地のイベント連携や観光客増加による回遊需要の高まりを反映しており、目標達成に寄与した。
事業の今後について	引き続きコミュニティバスの利便性向上により来街者の回遊を促進する。

④. ブールバール等再整備事業【再掲】（富山市）

事業実施期間	令和元年度～令和 7 年度【実施中】
事業概要	路面電車の南北接続を契機として、富山駅北の賑わいを創出するためブールバールの再整備やイベント等の社会実験を実施する事業である。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（富山市中心市街地地区（第 4 期））（国土交通省）（令和 4 年度～令和 7 年度） 都市構造再編集中支援事業（富山市中心市街地地区（第 4 期））（国土交通省）（令和 4 年度、令和 6 年度～令和 7 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】2,530 人/日 増 調査地点である「オーバード・ホール前」の最新値は 3,759 人と基準年度である令和元年度の実績値である 2,740 人から 1,019 人増加した。 ブールバール再整備事業や社会実験も含めたイベントの開催を継続することで、今後も歩行者通行量が増加するものと思われる。
事業の今後について	ブールバール広場・親水広場の再整備が完了し、今後、ウェルビーイング社会実験も含めたイベントにも取り組み、ブールバールの賑わいを創出していくことで、事業完了までには歩行者通行量が 2,530 人/日増加すると見込まれる。

⑤. 中規模ホール整備官民連携事業【再掲】（富山市）

事業実施期間	平成 29 年度～ 【実施中】
事業概要	P F I 手法を用いて、富山市芸術文化ホール（オーバード・ホール）北側に中規模ホールを整備し、維持管理を行う事業である。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】 770 人/日 増 令和 5 年 7 月 1 日開館し、令和 7 年度の年間来場者数（日曜日）は 3,511 人であった。このことから、歩行者通行量は 878 人/日増加していると見込まれる。
事業の今後について	①催事の充実：中規模ホールの安定的運営により、コンサート・演劇・講演会等の多様な催事を年間を通じて定期開催し、まちなかへ来街者を誘導。 ②周遊・連携促進：オーバード・ホールや周辺施設（ブルバール・親水広場等）との連携イベントの企画・実施により、ホール来場者の中心市街地内での回遊を促進。 ③利用促進策：チケット購入者向けの周辺店舗割引連携や、公共交通（市内電車）利用者向け特典の拡充を検討・実施。 これにより、中ホールの開館効果を最大化し、歩行者通行量のさらなる増加を図り、事業目標の達成を目指す。

⑥. 交通空間賑わい実証事業【再掲】（富山市/富山トランジットモール実行委員会）

事業実施期間	平成 28 年度～令和 8 年度【実施中】
事業概要	富山城址公園が隣接し、沿道にコンベンション施設や複合型商業施設等が並び、路面電車が走行する大手モールのイベントに合わせてトランジットモール化する事業。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 4 年度～令和 8 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】 270 人/日 増 調査地点である「市民プラザ前」の最新値は 1,989 人と基準年度である令和元年度の実績 2,641 人から 652 人減少した。 交通空間賑わい実証事業の民間主導によるイベント開催が 3 年目を迎え来場者も年々、増加傾向にある。
事業の今後について	引き続き事業を継続し、民間主導によるイベントの企画・開催支援を強化するとともに、大手モール周辺の賑わい創出と集客力向上を図る。 令和 7 年度時点で通行量が基準年度比 652 人/日減少しているものの、民間主導のイベント来場者数は以下の通り着実な増加傾向にある。

	トランジットモール来場者数実績（R6 年度～） R6.5.26（日）：11,903 人 R6.9.29（日）：12,748 人 R6.11.24（日）：7,683 人 R7.3.23（日）：13,756 人 R7.5.25（日）：11,975 人 R7.9.28（日）：16,710 人 R7.10.26（日）：5,362 人 R8.3.22（日）：15,303 人 R8.5.31（日）：20,325 人 これらの取組により来街者数の回復が進むことから、目標達成の見込みである。
⑦. 富山市新規出店サポート事業【再掲】（富山市）	
事業実施期間	平成 21 年度～令和 8 年度【実施中】
事業概要	中心商店街等の空き店舗への出店者に対し、店舗改装費や賃借料等を支援し、市民、来街者のニーズが高く、商店街に不足している業種の出店を促進する事業である。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 4 年度～令和 8 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】982 人/日 増 事業においては、5 年間で 10 件の活用を目標としており、昨年度と合わせると目標の 16 件の活用を行っていることから、歩行者通行量は 1,571 人/日増加したものと見込まれる。
事業の今後について	補助対象の拡大等の要綱の見直し、市広報ツール（HP、公式 LINE、市報等）支援制度を周知を図り、出店・リノベーションを促進することにより、空き店舗の更なる活用を図る。

⑧. 中央通りD北地区第一種市街地再開発事業【再掲】（中央通りD北地区市街地再開発組合）

事業実施期間	平成 30 年度～令和 8 年度【実施中】
事業概要	スポーツ交流施設、商業施設、業務施設、住宅施設等の複合施設を整備する市街地再開発事業。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（富山市中心市街地地区（第 4 期））（国土交通省）（令和 4 年度～令和 7 年度） 社会資本整備総合交付金（市街地整備事業（防災・省エネまちづくり緊急促進事業））（令和 6 年度～令和 8 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】2,520 人/日 増 【最新値】— 令和 6 年度より建築物工事着工
事業の今後について	令和 3 年 3 月に本組合に移行し、令和 5 年 2 月に権利変換計画の認可を受けており、施設建築物工事に向け事業が進捗している。事業完了後は、整備される商業施設やアイススケート場の利用者や共同住宅の整備による居住者が増加することにより、2,520 人/日の歩行者通行量の増加が見込まれる。

⑨. まちなかイベント開催事業【再掲】（富山市）

事業実施期間	平成 20 年度～令和 8 年度【実施中】
事業概要	まちづくり会社や民間事業者、商店街団体等が連携・協働し、グランドプラザに樹脂製のスケートリンク（エコリンク）を設置するとともに、中心商店街を紹介する情報誌を作成する事業。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 4 年度～令和 8 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	エコリンク利用者数 令和 7 年度 9,119 人 令和 6 年度 8,594 人 令和 5 年度 5,960 人 グランドプラザでのイベント開催が来街者の集客と滞在を促進し、歩行者通行量増加に直接寄与している。
事業の今後について	引き続き、エコリンクの設置・運営および中心商店街情報誌の作成を継続する。 イベントの質の向上や広報活動の強化により、利用者数のさらなる増加を図るとともに、歩行者通行量の増加を目指す。

⑩. まちなか賑わい施設運営事業【再掲】（富山市）

事業実施期間	平成 19 年度～令和 8 年度【実施中】
事業概要	「グランドプラザ」と「ウエストプラザ」の管理運営およびイベント開催、さらにミニシアターの運営に対して支援を行う事業。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 4 年度～令和 8 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	グランドプラザ：イベント貸出件数 122 件 （令和 6 年度：123 件） ウエストプラザ：イベント貸出件数 121 件 （令和 6 年度：85 件） 賑わい交流館：シネマホール入場者数 21,066 人 （令和 6 年度：18,385 人） ライブホール 2,148 人 （令和 6 年度：2,335 人） 各施設において、安定的にイベントを開催し、中心市街地の賑わい拠点として機能している。
事業の今後について	グランドプラザ・ウエストプラザの管理運営を継続し、民間ノウハウを活かしたイベント開催を推進する。 指定管理者制度の効果的な運用により、市民サービスの向上と賑わいの創出を図る。

⑪. とやマスノーピアート開催事業【再掲】（富山市）

事業実施期間	昭和 60 年度～令和 8 年度【実施中】
事業概要	富山城址公園や城址大通りなどを会場に、12 月上旬から 2 月中旬にかけて冬の夜を華やかに彩る「ホワイトイルミネーション」などを実施する事業。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 4 年度～令和 8 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 7 年度も予定通り開催。エコリンクや中央通り仮囲いアートプロジェクトとの相乗効果により、冬季の歩行者通行量目標へ貢献していると考えられる。また、コロナ後回復傾向の中で、冬期中心市街地活性化の重要な役割を果たしている。
事業の今後について	引き続きイルミネーションを実施し、（一社）トヤマチミライと連携した富山駅周辺の賑わい創出、中心商店街エリアにおけるエコリンク等関連イベントとのさらなる連携強化を図る。

⑫. 富山まつり開催事業【再掲】（富山市）

事業実施期間	昭和 36 年度～令和 8 年度【実施中】
事業概要	富山城址公園と城址大通りを会場とし、9 月下旬に「よきこいやま」や「おわら踊り」などからなる市民参加型の祭りを開催する事業。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 4 年度～令和 8 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 7 年度も予定通り開催。過去 4 年間の来街者数は令和 4 年約 17 万人、令和 5 年約 19 万人、令和 6 年約 15 万人、令和 7 年約 16 万人と、毎年 15 万人規模となっており、城址公園・城址大通り周辺の人流集中が中心商業地区の回遊を促進し、歩行者通行量の増加に寄与している。
事業の今後について	引き続き大型イベントによる中心市街地の賑わい創出と回遊性向上を図ることで、歩行者通行量のさらなる増加が期待される。また、観光客拡大（ニューヨーク・タイムズ選出等）と MaaS 事業との連携により、目標達成に向けた取組を強化する。

⑬. 全日本チンドンコンクール開催事業【再掲】（富山市）

事業実施期間	昭和 30 年度～令和 8 年度【実施中】
事業概要	全国のプロチンドンマンや愛好者が参加するコンクールを毎年 4 月上旬に開催するほか、中心市街地でのパレードや街流しを行う事業。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 4 年度～令和 8 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 7 年度も予定通り開催。過去の実績として、令和 5 年度約 10.5 万人、令和 6 年度約 12 万人、令和 7 年度約 13 万人の参加者・観客を集めており、全国規模のイベントとして中心市街地に大きな集客効果をもたらしている。また、パレード・街流しによる中心市街地の回遊を促進し、イベント開催日の歩行者通行量増加に寄与している。
事業の今後について	引き続きパレード等を通じた集客・回遊効果を継続的に発揮し、目標達成を目指す。

⑭. 地域交通利用促進事業【再掲】（富山市）

事業実施期間	平成 20 年度～令和 8 年度【実施中】
事業概要	市内に宿泊する国内観光客に対し、路面電車の割引利用券を、また外国人観光客に対しては無料利用券を配布する事業。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 4 年度～令和 8 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 7 年度の実績：割引券（日本人用）86,759 枚、無料券（外国人用）42,982 枚 令和 4 年度の割引券 76,871 枚、無料券 3,513 枚と比べて大幅に増加。 割引・無料利用券の配布は、特に富山まつり等の大型イベント開催時における来街者や宿泊客の市内電車利用を促進するとともに、城址公園・城址大通り周辺の歩行者通行量の増加にも寄与している。
事業の今後について	今後も継続し、富山まつりやチンドンコンクールなどの大型イベントとの連携を強化することで観光客の中心市街地の回遊をさらに促進し目標達成を目指す。

●目標達成の見通し及び今後の対策

中心商業地区及び富山駅周辺地区の歩行者通行量の増加に向けた各事業については、おおむね順調に進捗している。

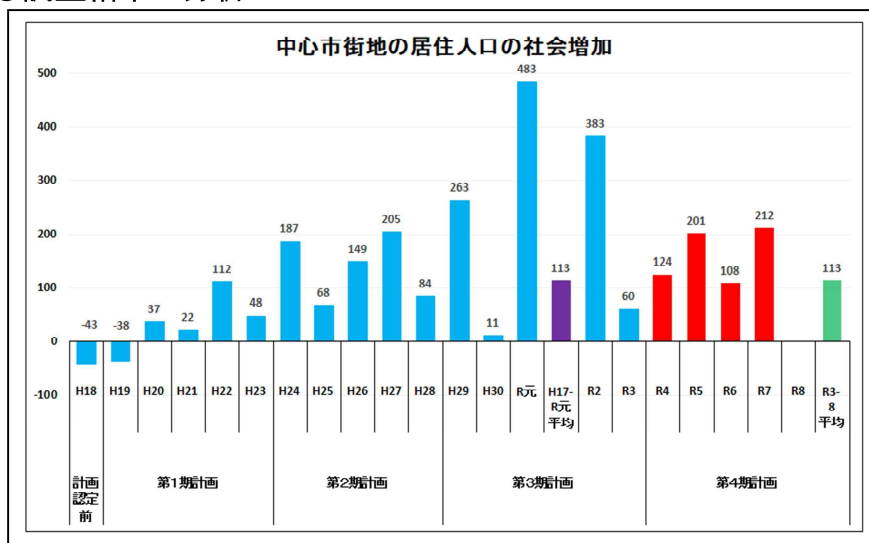
歩行者通行量が低迷している中心商業地区においては、新規出店サポート事業による新規店舗・既存店舗リノベーションの促進や、エリアプラットフォームによる未来ビジョンの策定などにより引き続き魅力あるまちづくりに努めることで、目標を達成可能と見込んでいる。

また、中央通り D 北地区市街地再開発事業により整備される商業施設やアイススケート場については、令和 9 年 3 月のオープン予定であるため、本計画期間終了時点での歩行者通行量への影響は限定的であるが、オープンに向けたプレイベントの開催や事前プロモーション等を通じて、再開発エリアである中心商店街への来街を促進する効果が期待される。

(3) ①「中心市街地の居住人口の社会増」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 92～P. 93 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
H17-R元	113 人増/年 (基準年値)
R4	124 人増/年
R5	201 人増/年
R6	108 人増/年
R7	211 人増/年
R3-8	113 人増/年 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳データに基づく

※調査月：毎年7月～翌年6月

※調査主体：富山市

※調査対象：中心市街地の居住者

〈分析内容〉

中心市街地の居住人口の社会増は、令和6年度から令和7年度にかけて211人の増加となった。現計画期間の令和3年度から令和7年度までの平均値は年161人増となり、目標を上回っている。

平成19年度以降、社会増が続いており、これは、「まちなか居住推進事業」における、住宅取得支援や家賃助成などの効果が現れているほか、市内電車環状線や循環型コミュニティバス「まいどはやバス」、自転車市民共同利用システムなどの交通利便性の向上や、「地場もん屋」をはじめとした生活利便施設の立地など質の高い居住環境が広く認識されてきたことが要因であると考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中央通りD北地区第一種市街地再開発事業【再掲】（中央通りD北地区市街地再開発組合）

事業実施期間	平成 30 年度～令和 8 年度【実施中】
事業概要	スポーツ交流施設、商業施設、業務施設、住宅施設等の複合施設を整備する市街地再開発事業。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（富山市中心市街地地区（第 4 期））（国土交通省）（令和 4 年度～令和 7 年度） 社会資本整備総合交付金（市街地整備事業（防災・省エネまちづくり緊急促進事業））（令和 6 年度～令和 8 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】434 人/日 増 【最新値】— 令和 6 年度に建築物工事着工
事業の今後について	令和 3 年 3 月に本組合へ移行し、令和 5 年 2 月に権利変換計画の認可を受け、施設建築物工事に向け事業が進捗している。事業完了後は、約 220 戸の共同住宅が整備されることにより、中心市街地の居住人口が 434 人増加すると見込まれる。

②. まちなか居住推進事業（富山市）

事業実施期間	平成 17 年度～ 【実施中】
事業概要	快適なまちなかにふさわしい多様な住まいの建設及び供給する市民・事業者に対して支援する事業である。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（富山市中心市街地地区（第 4 期））（国土交通省）（令和 4 年度～令和 7 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】739 人 増（75 件/年の支援） 【最新値】164 人 増 令和 7 年度の住宅取得支援（共同住宅を除く）の件数は、83 件と、基準としている平成 28 年度から令和 2 年度実績の年平均である 75 件を 8 件上回った。
事業の今後について	引き続き、まちなか居住を希望する方に住宅の取得支援を行い、まちなか居住を推進する。

●目標達成の見通し及び今後の対策

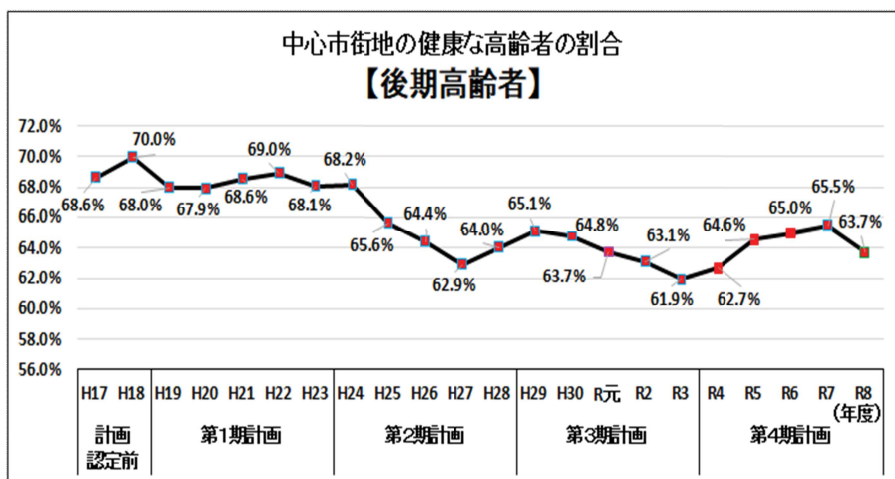
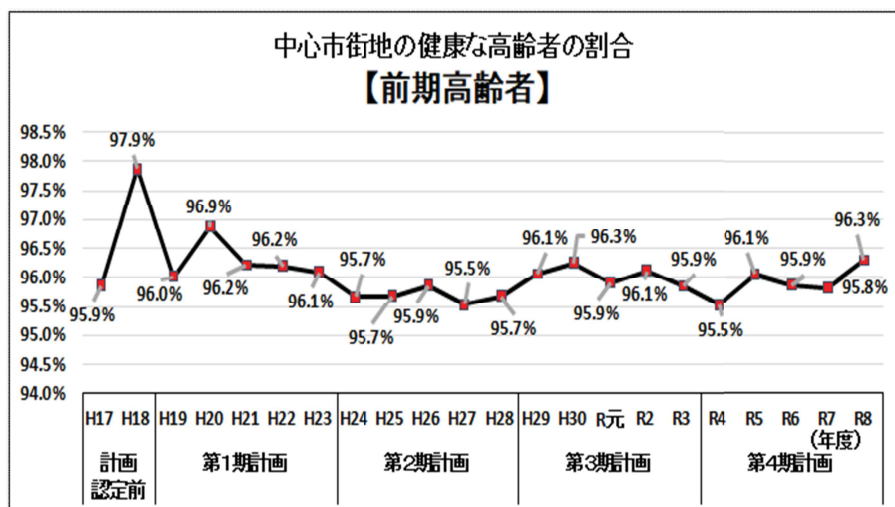
「まちなか居住推進事業」による支援が、目標の達成に寄与している。

今後も「中央通りD北地区第一種市街地再開発事業」や居住ニーズの高まりを受けて民間事業による分譲マンションの建設が予定されていることから、まちなかで良質な居住環境の供給が続き、より一層の中心市街地の居住人口の社会増加が見込まれる。引き続き、まちなか居住を支援することで目標を達成可能と見込んでいる。

(3) ②「中心市街地の健康な高齢者の割合」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 94～P. 95 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
R 元	前期高齢者 95.9% 後期高齢者 63.7% (基準年値)
R4	前期高齢者 95.5% 後期高齢者 62.7%
R5	前期高齢者 96.1% 後期高齢者 64.6%
R6	前期高齢者 95.9% 後期高齢者 65.0%
R7	前期高齢者 95.8% 後期高齢者 65.5%
R8	前期高齢者 96.3%以上 後期高齢者 63.7%以上 (目標値)

※調査方法：介護保険の要介護・要支援データ

※調査月：各年6月末時点

※調査主体：富山市

※調査対象：中心市街地に居住している65歳以上の高齢者

〈分析内容〉

令和7年度における中心市街地の健康な高齢者の割合は、前期高齢者で95.8%（基準年比▲0.1ポイント、目標値比▲0.5ポイント）、後期高齢者で65.5%（基準年比+1.8ポイント、目標値比+1.8ポイント）となった。

前期高齢者については目標値を0.5ポイント下回ったものの、後期高齢者では目標を大幅に上回る良好な結果となっており、全体としては改善傾向にある。

これは、「まちなか総合ケアセンター」における在宅医療の推進など地域包括ケア拠点施設としての総合的な支援や「まちなかサロン」でのイベントおよび自主的な趣味活動、創造活動を促進する数種類のコースを設けた「シニアライフ講座」の開催など、高齢者

の健康づくりや生きがいづくりを目的とした取り組みにより、多様な活動の機会の創出に努めてきたことが成果につながったと考えられる。また、「角川介護予防センター」での温泉水の効用を活用した水中運動やパワーリハビリテーションなど複合的な介護予防プログラムの提供が、高齢者の健康維持に寄与していると考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 地域包括ケア拠点施設運営事業（富山市）

事業実施期間	平成 29 年度～令和 8 年度【実施中】
事業概要	乳幼児から高齢者、障害者やその家族が、いつまでも地域で安心して暮らせる健康まちづくりを推進するための行政サービスを一元的・包括的に提供する「まちなか総合ケアセンター」の運営や、総曲輪レガートスクエア内の官民施設が協働事業に取り組み、賑わいや世代間交流・地域間交流の創出を図る事業である。
国の支援措置名及び支援期間	子ども・子育て支援交付金（内閣府）（令和 4 年度～令和 8 年度） 母子保健衛生費補助金（厚生労働省）（令和 4 年度～令和 8 年度） 地域支援事業交付金（介護保険事業）（厚生労働省）（令和 4 年度～令和 8 年度） 生活困窮者就労準備支援事業費等補助金（厚生労働省）（令和 4 年度） 重層的支援体制整備事業交付金（厚生労働省）（令和 4 年度～令和 8 年度） 地域生活支援事業補助金（厚生労働省）（令和 4 年度） 児童虐待防止等総合支援補助金（こども家庭庁）（令和 5 年度～令和 8 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【基準年度】診療件数 1,903 件、カレッジ参加人数 4,211 人 【最新年度】診療件数 2,068 件、カレッジ参加人数 2,517 人 令和 7 年度の診療件数は 2,068 件と基準年度である令和元年度の 1,903 件から 165 件増加した。一方、令和 7 年度のカレッジ参加人数は 2,517 人と基準年度である令和元年度の 4,211 人から 1,694 人減少した。 カレッジ参加人数については、令和 6 年度と比べると 955 人減少しているが令和 3～5 年度と比べるとおおむね、増加傾向である。
事業の今後について	引き続き、まちなか総合ケアセンターにおける様々な取り組みを通して、地域住民が安心して健やかに生活できる健康まちづくりを推進し、中心市街地の健康な高齢者の割合の向上を目指す。

②. 角川介護予防センター管理運営事業（富山市）

事業実施期間	平成 23 年度～ 【実施中】
事業概要	超高齢化社会により高齢者人口が増加すると見込まれる中、多機能温泉プールによる水中運動やパワーリハビリテーション等の陸上運動を組み合わせた介護予防プログラムの提供などを行う介護予防の拠点施設である「角川介護予防センター」を運営し、元気な高齢者を増やすため積極的な活用を推進する事業である。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【基準年度】延べ利用者数 87,336 人 【最新年度】延べ利用者数 83,421 人 令和 7 年度の角川介護予防センターの延べ利用者数は 83,421 人と基準年度である令和元年度の 87,336 人から 3,915 人減少した一方、令和 6 年度と比べると 1,040 人増加しており、回復傾向であると考えられる。
事業の今後について	引き続き、角川介護予防センターにおける様々な取り組みを周知し利用を促進することで、高齢者の生活の質の向上と健康寿命の延伸を図り、中心市街地の健康な高齢者の割合の向上を目指す。

③. 歩くライフスタイル推進事業（富山市）

事業実施期間	令和 2 年度～ 【実施中】
事業概要	「とほ活」（＝富山で歩く生活）をキャッチコピーに、過度に車に依存したライフスタイルから、公共交通を利用した中心市街地への来街や健康づくりとして歩くなど、「歩くライフスタイル」への転換を促す。また、「歩きたくなるまちづくり」の一環として、まちを楽しみながらより長く快適に歩けるよう官民が連携してベンチを整備する事業である。
国の支援措置名及び支援期間	デジタル田園都市国家構想交付金（内閣府）（令和 5 年度） 地方創生推進交付金（内閣府）（令和 4 年度） 都市構造再編集中支援事業（富山市中心市街地地区（第 4 期））（国土交通省）（令和 4 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【基準年度】60 歳以上のとほ活アプリユーザーの月当たり平均歩数 5,810 歩 【最新年度】60 歳以上のとほ活アプリユーザーの月当たり平均歩数 7,267 歩 令和 7 年度の 60 歳以上のとほ活アプリユーザーの月当たり平均歩数は 7,267 歩と令和 6 年度の実績に比べ 642 歩増加し、基準年度である令和元年度の 5,810 歩から 1,457 歩増加している。 これは、歩くライフスタイル普及啓発により、とほ活アプリが周知され、市民の歩く機会が増えたことによるものと思われる。

事業の今後について	引き続き、とほ活アプリを通じて歩くことの意識の醸成を図り、中心市街地の健康な高齢者の割合の向上を目指す。
-----------	--

④. シニアライフ講座運営事業（富山市）

事業実施期間	平成 8 年度～ 【実施中】
事業概要	60 歳以上の市民を対象に、健康と生きがいを高めるため、公民館等を会場に、趣味活動・創造活動・健康活動の各種講座を開催する事業である。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【基準年度】シニアライフ講座参加人数 341 人 【最新年度】シニアライフ講座参加人数 223 人 令和 7 年度のシニアライフ講座の参加人数は 223 人と基準年度である令和元年度の 341 人から 118 人減少した。 令和 6 年度と比べると、15 人増加しており、回復傾向であると考えられる。
事業の今後について	高齢者のニーズに合わせた魅力ある講座を開設し、利用の促進を図り、引き続きシニアライフ講座を行っていくことで、高齢者の健康と生きがいを高め、中心市街地の健康な高齢者の割合の向上を目指す。

⑤. おでかけ定期券事業【再掲】（富山市）

事業実施期間	平成 16 年度～令和 8 年度【実施中】
事業概要	市内在住の 65 歳以上の高齢者を対象に、バス・鉄道・路面電車を利用して中心市街地へ出かける際に、1 乗車 100 円で利用できる IC カードを発行する事業。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 4 年度～令和 8 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【基準年度】延べ利用者数 1,009,470 人 【最新年度】延べ利用者数 729,188 人 令和 7 年度のおでかけ定期利用者数は、729,188 人と基準年度である令和元年度の実績 1,009,470 人から 280,282 人減少した。 令和 6 年度と比べ 9,449 人減となった。新型コロナウイルスの影響から年々、回復傾向にあったが、路線バスの減便、廃線や運行ルートの変更により減少している。
事業の今後について	①広報活動の強化 対象者（65 歳以上）への直接アプローチとして、 ・広報とやまや市公式 LINE に加え、高齢者施設（ケアハウス、有料老人ホーム、サービス高齢者住宅、デイサービス等）や、県の施設へパンフレット配布範囲の拡大

	・おでかけ定期券の新規・更新時期（3月下旬～）に合わせ、高齢者施設への説明会実施 ②優待サービスの周知・拡充 協賛店（約80店）との連携を強化し、おでかけ定期券提示時の特典メニューを更新・拡充 これらの取組について検討し、定期券の申し込みや利用の促進を図ることで、さらに高齢者の外出機会や歩く機会を増やし、中心市街地の健康な高齢者の割合向上を目指す。
--	---

⑥. 中心市街地コミュニティバス運行事業【再掲】（富山市）

事業実施期間	平成12年度～令和8年度【実施中】
事業概要	中心市街地区域内において循環型コミュニティバス（まいどはやバス）を運行する事業。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和4年度～令和8年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	まいどはやバスの循環運行が中心市街地内の移動利便性を高め、イベント会場や商業施設へのアクセスを容易にすることで歩行者通行量の増加を間接的に支援している。 令和6年度は西ルート60,088人・東ルート64,533人だったが、令和7年度は西ルート63,535人（前年度比+3,447人、約5.7%増）、東ルート68,383人（前年度比+3,850人、約6.0%増）と両ルートで利用者数が着実に増加した。
事業の今後について	引き続きコミュニティバスの利便性向上と高頻度運行の継続により、高齢者の外出機会をさらに増やし、社会参加の促進と活動量の維持を通じて中心市街地の健康な高齢者の割合の向上を図り、令和8年度目標達成を目指す。

●目標達成の見通し及び今後の対策

「まちなか総合ケアセンター」における在宅医療の推進など地域包括ケア拠点施設としての総合的な支援、「角川介護予防センター」での温泉水の効用を活用した水中運動やパワーリハビリテーションなど複合的な介護予防プログラムの提供や、高齢者の外出機会を創出することで健康寿命を延ばす、「おでかけ定期券事業」や「歩くライフスタイル推進事業」など継続的に行うことで、目標達成を見込んでいる。

具体的には、これまでの取組の継続により以下の効果が累積・拡大して目標達成する見込み。

①介護予防プログラムの継続効果

角川介護予防センターにおける水中運動やパワーリハビリ等への参加により、筋力の維持や転倒予防が促進され、要支援・要介護状態への移行が抑制される。これまでの実績

から、プログラム参加者の健康状態の維持・改善が確認されており、直近では参加者数が増加傾向にある。この結果、中心市街地全体における健康な高齢者の割合を押し上げられる。

②在宅医療・包括的支援の蓄積

まちなか総合ケアセンターでの診療件数の増加（基準年度比で増加傾向）と、医療・介護・子育ての一体的な支援により、地域全体の健康管理体制が強化されている。在宅医療の推進により早期介入が可能となり、重症化予防効果が徐々に表れる。

③外出促進による健康維持効果

おでかけ定期券事業や「とほ活」により高齢者の社会参加・歩行機会が増加し、生活機能の低下を防ぐ。実際、定期券利用継続者は医療費が相対的に低く抑えられる傾向が確認されており、外出習慣の定着が健康寿命延伸に寄与する好循環が生まれている。